洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005展覧会閉幕

来場者4,000人を超える

笹野審査委員長が彫刻の見方を解説

村民有志で組織されている洞爺村国際彫刻ビエンナーレ企画五十人委員会では、十月四日、新たな試みとして広く村民の参加を呼びかけ、彫刻の鑑賞方法や楽しみ方について、審査委員長の笹野尚明氏を招いて学びました。

当日午後六時三十分より総合センターの展覧会場に、村民の皆さん約三十名が集合、実際に彫刻を見ながら、作品についての質問をしたり笹野委員長から「何を表現したいか、それをどのように組み立てているか、その技術はあるかという三点を重視している」と審査のポイントや専門的な見方を教わり、より一層彫刻への関心を高める機会となりました。

彫刻をピックアップして説明する笹野審査委員長

三千人目の入場者に村特産品など贈呈

第七回目となった洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005（同実施委員会・洞爺村主催）は、九月二十三日から十月二十三日まで、総合センターを会場に開かれ、多くの村民や愛好者の皆さんが訪れました。

なお、十月十六日、札幌の学生、秩父健志（一九）さんが、三千人目の来場者となり実施委員長の菊地村長から、村特産のビエンナーレ（シソジュース）、図録などの記念品が贈られました。

3,000人目の入場者となった秩父さんに記念品が贈られる

秩父さんは、「友人に誘われて作品を見に来た。僕には難しかったが記念品をもらいラッキーと思う。」と喜んでいました。

また、記念品として贈られたいこいの家回数券で、友人といっしょに洞爺村の温泉をさっそく楽しんでいかれました。

入場者四千人突破しビエンナーレ閉幕

最終日となった十月二十三日、会期中の入場者が、これまでのビエンナーレ展覧会で初めて四千人を突破し、四千七十七人となりました。

記念の四千人目となった虻田町の主婦・奥山洋子さんに杉上助役からじゃがいも、ビエンナーレ（シソジュース）など洞爺村の特産品が贈られました。

奥山さんは、「毎回多くの国のいろいろな作品を見るのを